資料３

都市計画審議会及び改定検討部会の指摘事項等を踏まえた

都市計画マスタープラン改定に向けた主な論点（たたき台）

～次世代につなげる千代田区の都市づくり・まちづくりの方向感～

【今後の都市づくりのテーマに関するこれまでの都計審・部会における議論の要旨】

国際都市・首都東京の中心である地域特性を踏まえ、都市づくりのトップランナーとして地球温暖化対策、ユニバーサルな環境整備、国際ビジネス交流、新たな価値の創造等、都市の「**先進性**」を先導するとともに、大規模災害等に対して、都市機能継続性を発揮できる「**強靭性**」を備え、コミュニティや歴史・文化、自然、環境面等における「**持続可能性**」が確保された都市を目指していく。

Ⅰ　今後の人口動向（数・人口構造）にどう対応していくか

1　新しい住民の増加にどう対応していくか

- ○　住宅の量から生活環境の質的向上への転換
- ○　当面の人口増にともなう生活支援インフラの対応
- ○　「定住人口確保」から新旧住民が共に住み続けられるまちづくり
- ○　新旧住民の共生・コミュニティの連携の推進と新たな住民の地域への愛着醸成
- ○　昼間区民も含めた多様な「区民」の連携

2　人口増加のピークの向こうにある「超高齢社会」にどう対応していくか

- ○　当面の「子育て支援」への対応と「超高齢社会」に向けたまちづくり
- ○　健康長寿人生 100 年時代を支援するユニバーサルな都市環境整備

Ⅱ　多様な人々が活動し交流する千代田区における今後の都市像とは？

1　地域の個性・歴史・文化を維持・継承し磨きあげていく都市

- ○　「地域らしさ」「歴史的な街のなりたち」を残しながら、地域の課題を解決する手法
- ○　地域の特性に相応しい「賑わい」とはどのようなものか

2　「産業のソフト化」等への対応を含め、創造的な交流を促し付加価値を創出する都市

3　緑や水辺が豊かで、居心地のよい空間が設えられ、多様な交流が繰り広げられる都市

4　歩行者が優先され、かつ、多様な移動・交通手段が利用できるユニバーサルな都市

5　災害に対し強靭な都市

- ○　新旧建物が混在するエリアにおける災害リスクの低減（建物倒壊、インフラ遮断、高層マンションにおけるリスク等）
- ○　復興事前準備の推進（社会基盤、コミュニティ、帰宅困難者への対応）

Ⅲ　国際都市・首都東京を牽引する都市ビジョンは？

1　世界都市に相応しい社会基盤・都市基盤の整備

　○　情報技術や環境技術など先端技術を都市づくりに生かす

　○　脱炭素都市やエネルギーの自立分散化に向けて、集積のメリットを生かしたトップランナーとしての取り組みの加速

　○　大規模災害にも強靭で、迅速に復旧・復興できる都市機能継続性の確保

　○　災害時に都市に滞在する来街者・観光客等、多種多様な人々の身を守る

　○　世界中の人々が活動し移動しやすいユニバーサルな都市基盤の整備

2　産業のソフト化等ビジネスの環境変化を踏まえ、創造的な交流を促し付加価値を創出する都市

3　SDGs を念頭に置き持続可能な都市づくりの目標を設定する

Ⅳ　まちづくりの担い手・コミュニティの在り方

1　コミュニティとまちづくりをどうつなげるか

　○　大学や企業との連携をどう進めるか

　○　民間空地や大学施設等の活かし方

2　都心の高質で多様な空間の創出と連携（ネットワーク）、マネジメントをどう進めるか

　○　利活用を前提とした空間・街並み形成の誘導

　○　都市マネジメントの担い手や公民学連携等の在り方

Ⅴ　優先的・戦略的に取り組む地域の考え方、機能更新の進め方

1　地域課題や機能更新の困難さを踏まえた面的な戦略の必要性

　○　個別の街区や地域の部分最適化にとどまらず、広域的な全体最適化を目指す

2　課題解決と都市の持続可能性の調和を図るため、「量的インセンティブ」のみにとどまらない開発・更新の誘導手法の在り方

Ⅵ　マスタープラン改定プロセスと計画マネジメント手法

1　マスタープラン改定と区民参画のプロセス

2　マスタープランの見直しのマネジメント手法としての「白書」